

2020 年 6 月 16 日

担当者: 岩崎

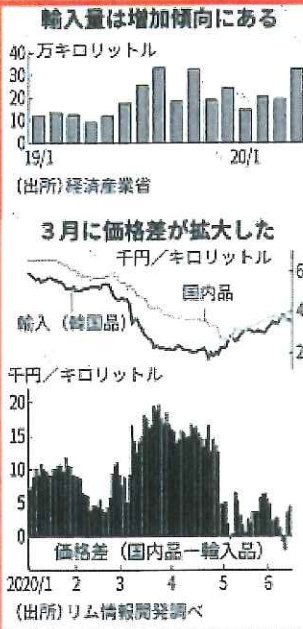
割安ガソリン、輸入急増

4月 商社・元売り、韓国から調達

ガソリンの輸入が増加している。4月の輸入量は前年同月比3・5倍。新型コロナウイルスの感染拡大による需要減で輸入品の価格が急落、商社や石油元売り各社が韓国などから調達を増やしたようだ。割安な輸入ガソリンの増加は国内給油所の店頭価格を押し下げる一因となりかねない。

価格下押し要因に

経済産業省の石油統計によると、4月の輸入量は前月比約7割増の32万トンだった。これは4月の国内ガソリン販売量の約1割に相当する。輸入ガソリンが増え、輸入ガソリンの価格が急落した背景は輸入品の価格下落だ。エネルギー調査会社、リム情報開発(東京)によると、年初は韓国産が約7千



円安かつたが、この差が3月に急拡大した。新型コロナウイルスの影響で韓国でもガソリン消費が冷え込んだためだ。国際エネルギー機関(IEA)の推計によると、3月のガソリン需要は日本が例年に対して10%減ったのに対して、韓国は10%減だった。市場構造の違いも価格差を生む一因だ。日本はガソリン販売量の9割超が国内産だが、韓国は輸出志向が強い。実際「韓国には輸出を念頭に置いた製油所がある」(石油天然ガス・金属鉱物資源機構の竹原美佳氏)。

大きな価格差に目を付けた燃料商社が輸入を前やしたとみられる。ある商社は「価格が安く、需

輸入する」と打ち明ける。輸入などで対応する」と一部の元売りも輸入に動いたようだ。JXTG エネルギーの川崎市や大分市の製油所など多くの製油所が春から定期修理に入っている。その際の不足分を輸入品で埋める狙いだ。

業界再編も輸入増を促す。コスモ石油は2019年7月からキグナス石油に石油製品の供給を始めたが「キグナスへの供給は、製油所の稼働率を最大化した上で不足分は

輸入などに対応する」という。コスモの20年度のガソリン販売計画量は前年度比1%減。同12%減を見込む出光興産などに比べて落ち込みが小さいが、その一部は輸入で賄うとみられている。

足元でガソリンの内外価格差は1.5円超6千円ほどに縮小したが、今も輸入品が安い状態が続く。米調査会社、S&Pグローバル・フラッツのアントン・フェルコフ氏は「価格差が定着しており、今

後も輸入を増やしやすい環境にある」とみる。輸入品の増加は国内産の軟化要因になる。レギュラーガソリンの全国平均店頭価格は5月中旬の1.24・8円を底に、6月初旬には1.28・7円まで上昇した。だが「需給の調整弁の役割を果たす輸出が弱い中、安い輸入品が増える」と国内価格を下押しする(桃山学院大学の小原正稔教授)との見方は根深い。

2020 年 6 月 16 日

担当者: 岩崎

サウジの石油施設・空港攻撃

国連、イラン関与認定

【ニューヨーク16日吉田

圭織】国連のケテレス事務総長が、2019年にサウジアラビアの石油施設と空港の攻撃に使われた無人機や巡航ミサイルは「イラン由来」との調査結果を安全保障理事会に伝えたことが分かった。日本経済新聞が入手した報告書で明らかになった。米国やサウジなどはイランの関与を主張してきたが、国連が認定す

るのは初めてだ。

19年9月のサウジ国営石油会社サウジアラムコの施設攻撃では、同国の原油生産の約半分が止まり、原油価格の急騰につながった。国連は同年12月の前回報告書でイランの関与は「確認できない」との結論を出していた。イランはサウジ攻撃への関与は否定してきた。

今回の報告書によると、国連はイエメン周辺の海域で米国が押収したミサイルなどの武器を分析した。その結果、それらの武器はイラン製のもので、ペルシャ語が刻み込まれていた。さらに、押収した武器と、サウジへの攻撃に使われた巡航ミサイルや無人機の破片を照合したところ、部品などが一致したという。

トランプ米政権は大統領選を前にイランへの強硬姿勢を強めている。米国は10月に迎える対イラン武器禁輸措置の期限を延長するため、安保理決議案を準備している。米国のクラフト国連大使によると、決議案を近く全理事国に配るといふ。今回の報告書を受けて、延長が必要と主張する公算が大きい。

米国が18年にイラン核合意を離脱してから米国とイランの関係は緊張が高まっている。今年1月には米国がイラン革命防衛隊の司令官を殺害したことを受けて、対立の激化も懸念されていた。



ウメモト インフラオメーション



2020年 6月 16日

担当者: 小松

塗料用水系ポリウレタン樹脂

DKSH ジャパンが販促

DKSH ジャパンは、イランベルティ社の塗料用水系ポリウレタン樹脂の販売促進活動を開始した。木材・金属・プラスチックなどの工業用コーティングに利用できる。

品揃えが豊富で、REACH登録されているほか、FDA認証グレード、NMPフリーなどの特徴がある。DKSH ジャパンは、イランベルティ社と2月

27日付で同社の塗料用水系ポリウレタン樹脂について、日本国内での総代理店契約を締結し4月から販売促進活動を開始した。同製品はイタリア製。

金属、食品包装、プラスチック、インキ、合成皮革などへの各種コーティングができる。基材・塗工条件・乾燥温度・乾燥時間に応じてフレキシブルに配合対応ができる。その他、イランベルティ社では艶消しタイプ、NMP非含有グレード、耐アルカリ性、FDA承認、低温シールンク性などさまざまなニーズに応えた製品を開発している。

DKSH ジャパンのコーティング関連ポートフォリオでは、イスラエルのICL社の防錆顔料、オランダのアダプト社の環境配慮型各種添加剤などを扱っている。同社の石原滋社長は「イランベルティ社の高品質のポリウレタン樹脂デイスパーションは、当社

トフォリオに合致する」と述べた。イタリアに本社を置くイランベルティグループは1911年創業。取り扱っている特殊化学品の分野は農薬、建物、セラミックス、コーティング、化粧品、洗剤、インキ、革製品、油田、塗料、紙製容器、布製品など多岐にわたる。世界各国に子会社や生産拠点を有している。

引用記事...

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報



ウメモト インフォメーション



2020 年 6 月 16 日 担当者: 権野

2020/6/16

日本経済新聞

朝刊・夕刊 ストーリー Myニュース 日報

トップ 速報 マネー 経済・金融 政治 ビジネス マーケット テクノロジー 国際 オビエ

エフピコ、積水化学系から事業取得 プラ容器の製造・販売

環境工ネ・素材 中国 広島

2020/6/15 19:24 | 269文字

保存 共有 印刷 共有 ツイット その他

食品トレイ最大手のエフピコは、積水化学工業子会社で肥料や住宅資材の販売などを手掛ける積水ヒノマル（熊本市）から、プラスチック製食品容器の製造・販売事業を10月に取得すると発表した。原材料の調達コスト削減や、販売網の拡大につながると判断。生産技術や物流のノウハウを共有することで、主力製品の販売増に弾みをつける。取得額は非公表。

積水ヒノマルはめんたいこや練り物など水産加工品を手掛ける事業者との取引が多い。食品容器の製造・販売事業の売上高は51億円程度。エフピコは同事業の取得をテコに、これまで取引が手薄だった分野への販売を強化する狙いだ。